

留学報告書

旭川校 教育発達専攻 教育心理学分野 3年 澁川莉保子

留学先大学名・国名：ベルゲン大学・ノルウェー

留学期間：2017年8月～2018年6月

私は、ノルウェーのベルゲンという街で、交換留学生として留学していました。ベルゲンには、フロイエン山や世界遺産のブリッゲン(Bryggen)などの観光地があり、毎年多くの観光客が訪れます。



世界遺産のブリッゲン



フロイエン山

ノルウェーでの生活は、ノルウェー語の知識が全くないところから始まりました。新しい環境で分からないことがたくさんありました。しかし、ノルウェー人の友達に助けってもらったり、街中では英語で話しかけて教えてもらったりすることによって、日々の生活を送ることができました。また、英語についても、人が話していることが半分も理解できないような英語力から始まりました。自分が伝えたいことも半分も話せず、もどかしさを感じていました。しかし、他の学生と関わるイベントに積極的に参加したり、友達と話すときに、伝えきれぬ自信がなくても口に出すようにしたりすることで、少しずつですが、英語で話す力が向上していきました。友達とうまく意思疎通が取れたり、初めて会った人とお互いの文化について様々なことを話したりできるようになった時はとても嬉しかったです。

授業についても、初めはほとんど理解できませんでしたし、レポートのテーマや書き方、長時間のテストなど、経験がほとんどないものだったので、大変戸惑いました。分からないことや、できないことがたくさんあり、悩むこともありましたが、その中で、周りとの比較するのではなく、自分にできることをやろうという思いで、望んでいました。留学の後半では、先生の話が理解できておもしろいと感じられる授業が出てきたり、課題をきちんとこなせたりということがあり、自分自身の成長を感じました。ノルウェーで勉強していたことは、日本の大学で勉強していたことと全く違う内容だったのですが、新しい分野の学習は自分にとって視野を広げられるよい経験になりましたし、興味深かったです。

普段の生活では、ノルウェー人の学生やそのほかの現地の人、留学生などいろいろな人と関わり、話すということを大切にしていました。言語がうまく扱えない状況だからこそ、コミュニケーションの基本に立ち返り、文法が間違った英文であっても、今日の前にいる相手に伝えようという気持ちをもって話しかけること、そして、相手が話していることを受け止めようとする気持ちをもって、人と接するようにしていました。年齢や社会的な立場は関係なしに、どんな人でも平等というノルウェー人の考え方に影響を受けたということもあり、相手が子どもであっても、どんなに目上の人であっても、尊重し、コミュニケーションを取ろうとすることはとても大切だと思いました。その姿勢は、これからも忘れずに継続していきたいと思います。

ベルゲン大学には、大学に、自分が教えられる言語と学びたい言語を選択して申し込むことで、言語を学びたい学生のために、言語パートナーを作ってくれる制度があります。言語パートナーになった学生は、お互いの言語を教え合います。私の場合は、言語パートナーの学生からノルウェー語を学び、日本語を教えていました。自分たちで会う回数や時間を決めら



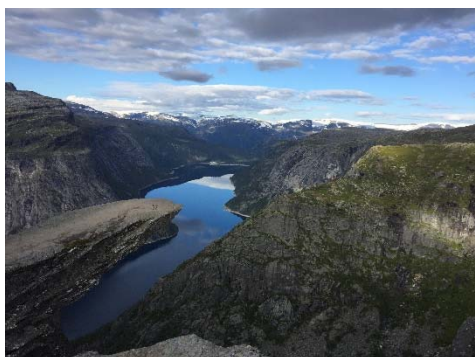
クリスマスの展示品

れるので、私たちは、週に1~2回、会っていました。時間は、1時間~1時間半くらいのことが多かったのですが、日によっては、3時間ほど話していたこともありました。私の言語パートナーは日本語を専攻していたので、文法など教科書の内容を説明したり、作文を添削したりしました。文法については、自分では普段当たり前を使いすぎていて、考えたことがないことを質問されるので、日本語を新たな視点から見きっかけになりました。また、私はノルウェー語の授業を取っていたので、授業で分からなかったことを教えてもらったり、スピーキングテストの練習相手をしてもらったりなど、他にも彼女から様々なことを学ばせてもらいました。言語だけではなく、お互いの文化や考え方についても話すことを通して、ノルウェーについて知ることができました。また、日本や日本語については、まだ自分が知らないことがたくさんあるということに気付いたり、改めて考えたりするきっかけになったりしました。彼女や彼女の友達とはだんだん仲良くなり、言語を教え合う時間のほかにも、一緒に遊びに行ったり、ご飯を作ったりできて、その時間は私のノルウェーでの生活の中でかけがえのない思い出になっています。

住居については、大学の寮に住んでいたのですが、自分一人の部屋があり、キッチンとバスルームは数人でシェアしていました。料理を作りながら話したり、一緒にお互いの国のご飯を作って食べたりしたのは、貴重な思い出です。また、ノルウェー人の友達で、私が英語をうまく使いこなせず悩んでいるのを見て、上達するよう助けてくれる友達もいましたし、分からないことは何でも聞いていいと言ってくれて、生活を助けてくれる友達もいました。彼らの助けなしには、私のノルウェーでの生活は成り立たなかったと思います。

留学中、彼らをはじめとして、言語パートナーの学生やノルウェーでできた友達、そして街中や大学内、旅行先など、様々な場面で生活や学習を助けてくれたたくさんの人々には、本当に感謝しています。彼らには、今まで助けてもらった分の感謝を返すことはできませんが、私にできることは、その分、ほかの困っている人の手助けをすることや、社会貢献していくことだと思うので、人の役に立てることはないか考えて行動したり、社会に貢献していける方法を考え実践したりしたいです。

最後になりますが、留学するかどうかが迷っている方には、行ってみることを強くお勧めします。留学は異文化の中で自分を見つめ直す良い機会だと思いますし、行ってみたらこそある気付きもたくさんあります。是非行ってみて、実際に様々な経験をしてみてください。



トロルトウンガからの風景